



たすけあいセンター

ジュントス

JUNTOS! 通信

JUNTOSは
ポルトガル語で
“いっしょに”

日本語版

2018.1.19 発行第25号



もり・はしプロジェクト(森下町と橋本町の地域再生)の取り組み

旧片野医院と住宅を「えんがわハウス」として再生する取り組みがスタート

2015年の水害前日まで診療が行われていた「旧片野医院」と築100年の住宅が、災害後に空き家になっていました。「この場を残して欲しい」、「お茶のみができる場が欲しい」という地域の皆さんの声に背中を押され、私たちは「えんがわハウス」として再生するプランをまとめ、ジュントス・常総復興まちづくり 株式会社を設立し、6,000万円の資金を集めることにいたしました。

11月23日、地域の方向けに行った 住宅の内覧会でプランを説明した後、地域の皆さんで、この場でしたいこと、期待するイベントやあったらいいスペース、サービスなどを話しあいました。その中で次のような声が寄せられました。



えんがわハウスで実現したいこと

- 一人でふらりと来て飲食できるカフェ(多数)
- 「あげます・ください掲示板」で助けあい、
- 体力づくり、健康チェック、本が読める、
- 歌ったりできる、健康麻雀、趣味が楽しめる
- 子ども向けイベント、昔遊びを子どもに教える
- 落語会、演奏会、映画会、お茶会、言葉の教室
- 地域の子どもや高校生の学びの場
- 季節行事、豆まき、正月飾りやしめ縄づくり、
- 餅つき、食事会、バーベキュー
- 市外に転居した方などのお泊まり会
- 野菜や花作り・食の販売、宅配便の一時預かり
- 自宅にあるものをリサイクル



パルシステム茨城の皆さんが、片づけボランティアに来てくれました

森下橋本地区の高齢者の方々の暮らしの悩みごとでは、外出が一番多く、車の運転できず外に出たり買い物ができない悩みが多く聞かれました。処分したいものがあったとしても重くて運べない、片付けに困るという声もありました。えんがわハウスに送迎で来ることができ、その時に買い物をしたり、ものを運んだり、家事支援のコーディネートができると生活がしやすくなりそうです。

ジュントス移動支援も個別の送迎だけでなく、皆でお出かけをする機会を増やしていきます。もりはしプロジェクトは地域の皆さんの「これがしたい」を皆で実現していきます。



初詣に行ってきました



ここで多文化保育やりたい

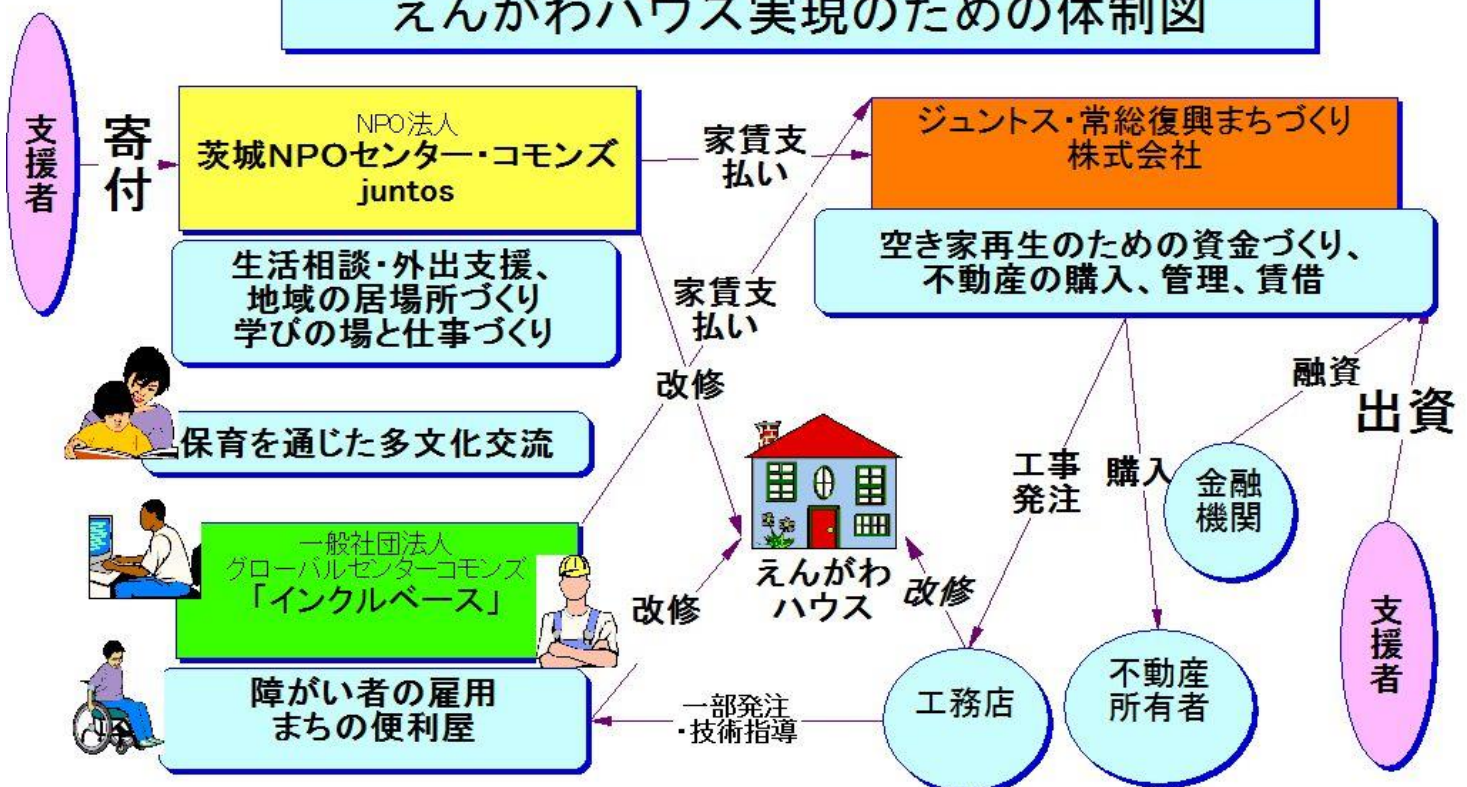
2017年度のJUNTOSの取り組み

活動分野	活動の経緯	2017年の動き
J(情報)	<p>発災1週間後から、被災者に生活再建の情報を多言語で伝えたり、相談に対応してきました。</p>	<p>常総市と連携して、外国籍住民などが自分の経験を生かして相談に対応するピア・サポーターの養成を行いました。その受講生が中心となり、多文化交流サロンYOUKOSO! が、隔月で開催されるようになりました。</p>
U(運転)	<p>2015年10月から車をなくした被災者の送迎ボランティアを始め、2016年10月からは会員制(月2,000円の会費)の助けあい活動に移行。</p>	<p>利用会員(19組25名)の通院、買い物などの送迎を10名の運転協力ボランティアが支えています。市のふれあい号が利用しにくい人のために月に70回ほど送迎しています。11月23日にJUNTOSハウスでお茶会、今年1月6日には初詣を行うなど、会員が交流する企画も行うようになっています。外出支援だけでなく、生きがいづくりや仲間づくりも行っています。</p>
N(直し隊)	<p>持ち主が不在、または改修できない家の改修を、ボランティアの手で行っています。森下町にあるJUNTOSハウスもその一つです。</p>	<p>橋本町の旧青柳製麺所と旧片野医院の改修を行うべく、多くの学生や企業のボランティアの協力を得て、片づけ、泥落とし、壁外しを継続しています。 2017年3月にコモンズを母体に設立された障がい者就労支援施設「インクル・ベース」の利用者は、毎日家の改修・片付けを教わりながら作業を行い、地域の便利屋として庭の手入れ、掃除、片付けなどを請け負って仕事をしています。</p>
T(届け隊)	<p>応援する気持ちと物資を届け、被災者の気持ちや体験を本にして届ける「ぬくもりのバトン」を手渡してきました。</p>	<p>2016年の体験談集「ぬくもりのバトン」に続き、常総の被災経験をもとに、「豪雨災害に備えるガイドブック」を作成。オリジナル防災セットも商品化しました。県内だけでなく、神奈川や東京から多くの視察研修の方々が来られ、常総の経験をお伝えしました。小学校での防災講演、中学校での避難所運営ゲーム、生協と連携した親子防災教室など、防災教育に関する事業も増えてきました。</p>
O(お話し隊)	<p>2015年は市内で在宅被災者のサロンを行い、2016年からはつくばに避難している方のサロンを継続してきました。</p>	<p>2017年9月につくば市の公務員住宅の無償提供が終わる前に、市外に避難した人が常総市に戻れるよう、常総市や常総社協と連携して住宅情報の提供、茶話会を行い、個別にアパート探しをしたり、10世帯の引越しをお手伝いしました。今後もえんがわハウスで交流活動を継続します。</p>
S(共に住み隊)	<p>空き家を活用した共同生活の場を模索してきました。住まいは改修できても家に閉じこもっていたり、慣れない転居先で誰とも話さないでいる人が集える場をつくろうと取り組んできました。</p>	<p>地域の人が集い、話したり、お茶したり、楽しい活動ができる場として、旧片野医院と住宅を「えんがわハウス」として改修することを決めました。土地の購入や改修に必要な資金を集めるため、ジュントス・常総復興まちづくり株式会社を設立しました。えんがわハウスの企画は、国土交通省のスマートウェルネスのモデル事業に選ばれました。助けあい、自主防災、多世代・多文化交流を皆で行いながら、誰もが取り残されることがない安心できるコミュニティをつくっていきます。</p>
学習支援	<p>常総市に多い外国とつながる子どもの学習支援を2010年から行っていました。</p>	<p>ボランティアによる放課後や夏休みの補習教室を継続しています。(対象児童生徒は40名、ボランティアは14名)。小学校に就学する前に言葉や習慣を身につけること、高校卒業後の仕事をつくること、この二つの目的から外国籍の人が保育の担い手にもなる多文化保育事業を立ち上げ、保育ニーズ調査、多文化子育てサロン、認可外保育を行う場所の整備に着手しました。コモンズのスタッフ4名が子育て支援員の研修を受講</p>

活動を広げるため、新たに2つの組織を作りました

法人名	認定NPO法人 茨城NPOセンター・コムンズ	一般社団法人 グローバルセンター・コムンズ	ジュントス・常総復興 まちづくり株式会社
設立	1998年11月15日	2017年1月13日	2017年10月3日
目的	地域の課題を市民主体で解決する取り組みを支援し、自らも寄付を募り、制度外福祉の実験を行う。	常総市周辺に暮らす障がい児者と家族を支援し、バリアフリーと多文化ソーシャルワークを広げる。	常総の水害からの復興のために空き家などの改修と再生を行い、暮らしやすい地域づくりに寄与する。
主な活動	NPO設立運営相談。困窮者相談、就労支援。常総の外国の子の学習支援。常総水害後に、たすけあいセンター「JUNTOS」を設立し、被災者のニーズに即して事業を企画。	障がい者の就労支援と、障がいのある子の放課後等デイサービス (外国の子や若者に障がいやひきこもりが多いことから、外国籍住民に重点を置く)	災害後に手付かずにいる住宅などを購入または借り受けて改修し、地域に必要な場(住居や地域拠点)として再生する。
えんがわハウスプロジェクトでの役割	全国から災害に関する視察研修や改修ボランティアの受け入れ。災害被災者の生活相談、移動支援。防災学習の企画。	住宅などの改修作業の一部を請け負い、障がい者が訓練を受けて改修、片付けを行い復興に寄与する。	片野医院の所有者から施設を借り受け、融資や出資などで改修のための資金を調達し、多職種の改修チームを組織して改修を行う。
	えんがわハウスを使った多文化保育の実験(外国人保育人材の育成、就学前の日本語習得支援と、母親に対する日本での子育てや教育に関する情報提供と職域開拓)	えんがわハウスの清掃・接客・庭の手入れ・調理や保育の補助などで、拠点にマンパワーを提供。地域の高齢者宅対象の生活支援サービスを担当。	改修後は、施設管理者としてコムンズや一般社団法人に施設を貸し出し、家賃収入の中から改修にかかった借り入れの返済などを行う。
	拠点でのソフト事業のコーディネートをしつつ、家賃を会社に払う。	拠点での福祉サービスを通じて、行政から収入を得て、会社にか賃を払う。	家賃収益の中から、市内の空き家の改修財源をつくり、空家の再生を促進する。

えんがわハウス実現のための体制図





多文化保育スタートに向けて

「多文化保育」とは、保育施設で日本人の子や多国籍の子を混ぜて保育する中で、互いの文化や言語に関心を持つようになり、偏見を持たずに相互に尊重し、助けあうことを学べるようにする保育のあり方です。2018年から多文化保育を始めるため、現在準備中です。

速報！保育のニーズ調査アンケート結果

常総市内の0～5歳の子(330名)をもつ外国籍世帯に対し、市役所こども課・市民協働課・公立保育所のご協力を得て、保育サービス利用についてどのようなニーズがあるかを郵送アンケートで一斉調査しました。およそ250世帯に配布し、47世帯の回答を得ました。結果の抜粋を下記に掲載します。
回答数:ポルトガル語版30部、英語版16部、日本語版1部

保育施設の利用状況	
利用している	37
利用していない	10

利用していない世帯の主な理由	
空きがない	6
子どもがまだ小さい	4

保育施設に空きがないために、利用できていない場合があります

保育施設を利用する上での課題 ※複数回答可	
入園時の書類作成	15
職員との日本語会話	20
他の保護者とのコミュニケーション	14
日本の保育についての知識不足	15
その他	0

課題があるときの対応 ※複数回答可	
日本語の使用	16
家族や知人への通訳依頼	21
有料通訳の利用	4
翻訳アプリの利用	22

日本語での保育所職員とのコミュニケーションや書類作成に困難を抱えています。その場合、通訳を頼んだりして対応しています

保育施設に期待すること	
母国語での通訳	18
母国語での翻訳文書送迎	21
母語のできる保育士・スタッフ	8
プレスクール(小学校就学前の初期指導)	20
その他	4

小学校入学後の学童利用希望	
利用したい	40
予定なし	2
無回答	5

母国語での通訳・翻訳やプレスクール、学童保育へのニーズが高いです。

『外国人ママサロン』から保育事業立ち上げへ

9月から、毎週火曜10時～12時にJUNTOSハウスで日本語を母国語としないママたちが集まるサロンを開催しました。「保育所の申し込み」、「予防接種」「離乳食の作り方」など、子育ての知識や情報を通訳付きで解説したほか、市の保健師、栄養士の話を聞いたり、保育施設の見学も行いました。1月からは、サロンに参加し保育の仕事を目指す人で、月、水、金の午前に認可外保育所を立ち上げるのための検討会や、他地域の保育所の見学などを行っています。

外国の若者向け 保育のキャリアセミナー

11月12日(日)、常総市生涯学習センターにて山梨県の保育施設で働くブラジル人保育スタッフの女性をお招きし、保育のキャリアや多文化保育についてお話を伺いました。ご自身が小学生で来日し、日本語の習得や学校での授業に苦労された経験や、多国籍の子どもを預かる「多文化保育」の職場の実際などについて話を聞く中で、参加者からも積極的に質問が挙げられ、貴重な意見交換の機会にもなりました。



ママサロンの様子



保育士や栄養士の資格を持つ方で、多文化保育に協力いただける方を募集しています。



どんな保育をするか検討中です



インクル・ベース

インクル・ベースは、今年3月より社会福祉事業所として開所しました。現在は、2つの事業を行っています。一つ目は、一般の企業で働くことが難しい心身にハンディキャップのある方や難病の方に「働く場」を提供する就労支援A型(Work)です。二つ目は、心身にハンディキャップを持つ子どもたちのために、放課後や長期休暇を利用し、身の回りのことや社会生活において必要な力を養うことを目的としたサービス、放課後等デイサービス(Kids)です。それではWorkとKidsそれぞれの活動を紹介します！

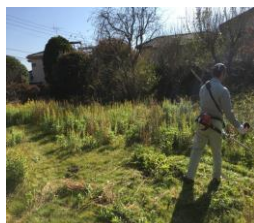
Work

インクルWorkでは、地域の方の小さなお困りごとから、除草作業や簡単な住宅修繕などのお仕事をお受けし、活動しています。

庭の除草作業の様子

「久しぶりの除草作業だったので少し大変でした。今後も除草作業があれば頑張ります。」(K. Dさん)

その他にも、ペンキ塗りや引っ越し、不用品買い取りなど、様々なお仕事をお受けしています。ご相談だけでもOKです。ぜひお気軽にお問合せください。



Before



After

11月17日(金)

日立市の「Empty base有限会社マルイ装美」にお越しいただき、ハウスクリーニングの研修を行いました。掃除の基本から、窓掃除やシンク、油污れの掃除など教えていただきました。長年放置された換気扇はひどい油污れでしたが、ある洗剤を使うと魔法のようにピカピカに。スタッフみんなで驚くことばかりでした。

「楽しかったし、勉強になりました。家に帰ってからシンク掃除と窓掃除の練習もしました。」(K. Kさん)



ハウスクリーニング研修



「Empty base」のみなさま、ありがとうございました。

フリーマーケット開催！

11月23日(木)

フリーマーケットを開催しました。

たすけあいセンターJUNTOSで行われたイベントと一緒に行いました。初めての開催でしたが、たくさんの方に来てもらうことができ、嬉しかったです！今後も開催していく予定ですので、ぜひお越しください。



スタッフの声 スタッフさんにインタビューをしました！

Eさん

- Q. いつから？ A. 2か月です。
- Q. 好きなことは？ A. みんなとお話すること。
- Q. 嫌なことは？ A. 細かい仕事が苦手・・・
- Q. 目標は？ A. これから出てくる新しい仕事を頑張りたい！
- Q. 一言どうぞ。 A. 楽しい場所です。

Kさん

- A. 2か月です。
- A. 音楽！ピアノを弾くこと
- A. 細かい作業。(意外です！)
- A. 苦手なものもできるようになること！みんなと仲良く過ごす。
- A. スタッフみなさん優しい。また、いろいろな仕事ができるので楽しいですよ。

募集しています！ インクルWork:一緒に働くスタッフを募集しています。

◎お仕事内容

- ・リフォーム業務、農園、リサイクル、オリジナル商品の企画販売
 - ・除草作業、植木の剪定、ポスティングなど
- さまざまなお仕事をお受けしています。
初心者でも大丈夫！スタッフが丁寧に教えます♪



インクル・kids

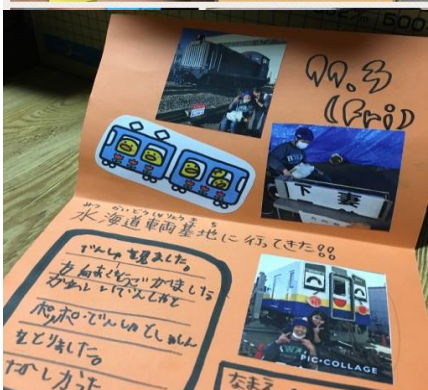
インクルKidsでは、現在5名のお友達と楽しく過ごしています。日々の活動はTeachプログラムを取り入れ、様々な体験をしてほしいと思い、計画を立てています。

粘土やパズル、水遊び、いろいろな遊びを提供し、楽しく集中できる遊びを見つけていきます。



ピアノを使って「音楽療法」。

ピアノは、指先のトレーニングや「次は何の音を弾こうかな？」と考える力にもつながります。また、音楽に合わせて体を動かしたり、歌ったりすることで、全身を使って楽しむことができますので、良い刺激になります。



お出かけをしました！

3日(金)文化の日に「水海道車両基地」、11日(土)には「筑波エキスポセンター」に行きました。常総線や汽車を間近で見ることができました。「でんしゃを見ました。方向幕を動かしました。かわいいでんしゃとポップーでんしゃと写真を撮りました。たのしかった。」(Dくん)



筑波エキスポセンターでは「水がこぼれないコップ」の実験をしたり、隕石を触ってみたいり、いろいろな経験ができましたね。

「3Dメガネをかけて見たタイムマシンバスがおもしろかった。」(Kくん)

今度はどこに行こうかな～。スタッフもみんなのお出かけが楽しみです♪



クリスマス会の写真

インクルKids：私たちと一緒に楽しい時間を過ごしましょう。

◎特徴

Teachを取り入れたプログラム作り
ピアノを使った「音楽療法」など

お子様、保護者様に寄り添った支援ができるよう努めています。

インクルでは、英語、ポルトガル語、スペイン語、タガログ語でのサポートができます。

インクルのスタッフの手でウェブサイトができました。

<http://gcc-incl.or.jp/>

インクルWorkのお仕事内容や金額など、さらに詳しい情報が記載されています。インクルKidsでの日々の活動も載ってます♪ぜひ遊びに来てください。



ボランティア募集中

活動分野	内容
移動支援	現在はたすけあいセンター「JUNTOS」の活動の一つとして、住民参加型の相互支援グループ（会員制）を立ち上げ、生活支援を行っています。送迎支援を今後も継続していくために、運転ボランティアを募集しています。また 2018年1月28日（日） に生涯学習センターで、ボランティア送迎講習会を行います。たくさんの方のご参加をお待ちしています。
直し隊	被災した家屋を改修し、地域の拠点や、住まいの提供を行っていきます。 大工経験のある方、日頃DIYをしている方、障子や網戸の張り替えが得意な方など、幅広く募集しています。皆さんと一緒に建物をよみがえらせてみませんか！
学習支援	アフタースクールの学習ボランティアを募集しています。 小学生（月曜日16:00～17:30、土曜日10:00～11:30） 中学生（土曜日14:00～16:00）の3クラスで募集しています。 子どもの宿題を一緒にやることが多いので、外国語の能力や日本語を教えた経験などは問いません。 ※詳細は commons・グローバルセンターのウェブサイト https://www.commonsglobalcenter.org/



一緒にまち歩き防災しませんか

市民有志の「見てみようよ！常総市民の会」は町を歩きながら、水害時の状況を語り部から聞いて常総市の歴史、お店などを紹介するツアーを開催しています。その4回目が開催されます。

◆**2月11日（日）9:30～15:00 橋本地区**
（参加費 2,000円 お問い合わせ：下記 juntosまで）

◆**2月3日（土）13:30～16:00**
「避難マップ作成のためのまち歩きワークショップ」
橋本地区で開催予定。街を歩いて道の状況などを確認し、安全な避難ルートを検討します。
（お問合せ：たすけあいセンター「JUNTOS」まで）

国際交流サロンyoukoso @常総市役所

外国人との交流に興味のある方、親子で多文化に触れたい方、常総市での生活について相談したい外国人の方... 多文化共生について学びながら交流できる、国際文化交流サロンが6月から隔月ペースで行われています。始まります！会話を楽しみながら日本語を教える活動に興味がある方もご連絡ください。

◆**2月4日（日）13:00～16:00**

場所：常総市役所 市民ホール
内容：日本の学校の入学手続き紹介、節分、防災、カフェコーナー 等（予定）
主催：常総市 協力：茨城NPOセンター・commons



ベーシックセット 1万円(税別)
最低限の用具の詰め合わせ
手回しラジオ、卓上ライト、ロウソク、防塵マスク、給水バック、笛、携帯トイレ、家庭用災害トイレ、カイロ、アルミシート、衛生セット、スリッパ、収納ケース

フルセット 2万円(税別)
厳選品の詰め合わせ
上記セットと防災トイレ増量分に加えて、太陽光式ライト、携帯充電器、エアベット、ヘッドライト、家の損害を記録するための使い切りカメラなどがあると役立つものを満載



防災ガイド付き



バックは水に浮きます

発行：たすけあいセンター「JUNTOS」

（運営：認定NPO法人 茨城NPOセンター・commons）

〒303-0005 常総市水海道森下町4335 （北水海道駅より徒歩3分）

ウェブ：www.juntos-joso.org eメール juntos@npocommons.org

☎：0297-44-4281 FAX：0297-44-4291

時間：午前10時～午後4時半（木曜・土曜は定休日、移動支援は実施）

